

## OSL年代測定を用いたキルギス共和国テルスケイ・アラトー山脈の最終氷期の氷河編年

### Glacier history during the Last Glacial in the in the Terskey-Alatoo Range, Kyrgyz Republic, using OSL dating

# 奈良間 千之 [1]; 近藤 玲介 [2]; 塚本 すみ子 [3]

# Chiyuki Narama[1]; Reisuke Kondo[2]; Sumiko Tsukamoto[3]

[1] 名古屋大・環境学; [2] 明治大・地理・院; [3] 都立大・理・地理

[1] Environmental Studies, Nagoya Univ.; [2] Dept. of Geography, Meiji Univ; [3] Dept. of Geogrphy, Tokyo Metropolitan Univ.

中央アジア山岳地域の最終氷期の氷河編年を解明するため、キルギス共和国北西部のテルスケイ・アラトー山脈において、モレーンとそれを覆うレスの堆積物にOSL年代測定を適用した。調査した5つの地域(Turasu, Alabash, Dengtala, Kek-Say, Temir-Kanat)に分布するモレーンは、シュミットハンマーによる礫の反撥値、地理的位置と高度から4つの氷河前進期(Terskey Stage I-IV)に区分された。このうち、最低位の高度2100~2250mに位置する一番古いステージ(Terskey I)のモレーンと高度2400~2700mに位置する二番目に古いステージ(Terskey II)のモレーンでOSL年代試料を採取した。

OSL年代測定には、石英の微粒子(4-11  $\mu\text{m}$ )と粗粒子(180-250  $\mu\text{m}$ )を用いた。採取した試料は、モレーン堆積物とそれを覆うレスである。また、モレーン上に堆積する埋没土壌の $^{14}\text{C}$ 年代により、OSL年代測定の検証もおこなった。OSL年代測定の結果、Terskey Stage Iのモレーン堆積物の年代は68kaで、モレーン上を覆うレスの年代は13kaであった。Terskey-Stage IIのモレーン堆積物の年代は22-18kaで、それを覆うレスの年代は8-19kaであった。 $^{14}\text{C}$ 年代測定をおこなった場所のモレーン堆積物の年代は24kaで、モレーン上の薄い土石流堆積物を覆う埋没土壌の年代は13kaであった。この結果、4つのステージのうち、下流に分布する比高100mほどの巨大なモレーンは、最終氷期のMIS4とMIS2に形成されたと考えられる。学会では、現在測定中の試料を含めて、Terskey Stageの年代と中央アジアの氷河編年をまとめて報告する予定である。